

平成31年1月27日に、駒場野公園自然観察舎内にて
意見交換会を開催いたしました。総勢20名の公園に関わ
る皆さまにお越しいただき、貴重なご意見を頂戴すること
ができましたこと、御礼申し上げます。



会の開催経緯

武蔵野の面影を残す雑木林や池、昔から残されてきた水田など
多様な自然環境を有する駒場野公園は、区内にある公園の中でも
もっともいきものの種類が多い場所です。また公園内では自然を
楽しみ守るボランティア団体が活躍する場所としても重要な役割
を果たしています。さらには、周辺地域の大規模緑地とつながる
エコロジカルネットワーク（いきものの移動経路）を形成する上
で区内のいきものの導入の場となる拠点に位置します。

このように区内でいきものの生息拠点となっている場所を保全するため、2018年3月に駒場野公園を「生物多様性保全林」に指定しました。

公園の自然環境の回復・再生に向けて、皆さまと共にこの先の将来に向けた管理をしていくために、
普段公園で活動されている皆さまと意見交換を交えて、公園の現状と今度の取り組みの目的を共有
するため、意見交換会を開催しました。



公園の環境変化を説明中

公園の自然環境の現状

駒場野公園が開園して32年が経過し、様々な環境の変化が見られるようになりました。下表は代
表的な環境変化を、区が実施した様々な調査結果をもとにまとめたものです。

変 化 項 目	メ リ ッ ト	デ メ リ ッ ト
駅からの通路の完成 拡張部への通路の完成	・通勤通学が便利になった ・駅近の公園となり利用する人口が増加 ・拡張整備により、新たな利用者層（遊具利用を目的とした児童等）の増加	・踏み圧により公園全体の土が固くなり 樹木の根が露出 ・利用者の特に多い場所では、樹木の生育環境の確保が困難
樹木の成長	・緑被率が高まり、緑豊かな憩いの場 ・開園当初には見られなかったいきものが住み着く	・高木により日陰が増え、後継樹が育ちにくい（特に落葉広葉樹） ・樹林の密度が高くなり、既存の樹木同士が互いの生育阻害要因となる
大池の環境変化		・水辺を好むいきものの生育環境の低下 ・陸地化の進行による水辺環境の減少
イベントやお祭り等 によるエリア活用	・通勤通学が便利になった ・駅近の公園となり利用する人口が増加 ・拡張整備により、新たな利用者層（遊具利用を目的とした児童等）の増加	・活動範囲が広がり、草地等のいきものの生息環境の減少 ・各団体の活動場所と自然を保全する場所のエリア分けや活動調整が必要

田んぼ水路の水量変化



2013年 冬



2018年 冬

挙げた意見

意見交換会で挙げられたご意見は多岐にわたり、今後の公園の目指す姿の実現に向けた第一歩を踏み出すスタートとして相応しいものとなりました。以下、当日に挙げられたご意見です。

- ・草地が減っている → 芝生を維持することは困難 → 土が固くなり、植物の根が定着しない → お祭りで使うエリアはかつて草地だった → 公園利用するエリアと守っていくエリアを分ける必要がある
- ・池の水は保水力を高めるものか？ → 公園の雨水は全て大池に集まる設計
- ・雑木林は暗くなったエリアがある → 昔はもっと暗かったが、管理をすることでスミレが年々増えるなどの成果が見られる → 暗い場所はクヌギ等がうまく育っていない
- ・クヌギの生える間隔は狭くないか？ → 苗木を数本植えたが、あまり植えた記憶はない → ほぼ萌芽更新したもの → 田んぼ脇に生えているクヌギ・コナラは樹冠が閉鎖されていて育ちが悪い
- ・開園当初のハンノキ林、松林にミズギ、イイギリが入ってきた → ゾーニングが変化した
- ・園内の桜が弱ってきた → 以前はリボンクラブで作った堆肥を撒いていたが今はやっていない → 若い労力が必要ならお手伝いしたい
- ・スズメバチが増えてきた印象 → 樹木の茂りが増え薄暗くなったため、スズメバチの営巣には最適
- ・アゲハチョウなどが減ってきた印象 → 食草の柑橘類は多くあるが、新芽を食べる幼虫にとって大きく育った樹木は適さない
- ・アオサギは大きいのか？ → サギ類の中では大きい → コサギが減りアオサギが多くなっている
- ・公園の樹木の名前が分からない → 樹名板を増やしてほしい
- ・いきものの観点からのみだと、公園利用の制限ができてしまう → お祭りやイベントの利用方法は都市公園としての魅力の一つ → 生物多様性保全と上手に共存させたい
- ・広場の地面にある緑色のプラスチックは何か？ → 「グリーンプロテクター」芝生を守る製品 → これ以上撤去すると砂が流出してしまう → 土砂の流出を防ぐには水平面にしなければいけない → 公園には勾配があるため難しい → 利用制限を掛けるしかない
- ・池周辺の樹木が大きく育ち、せり出してきた → トンボや野鳥が気付きにくい池になったのでは → 池に生息しているコイはいつからいるのか → 昔は色々ないきものをよく放流していた → コイなどの放流を防ぐためには普及啓発が必要
- ・野草園の縁石や園路の枕木をひっくり返して放置される → いきものを探しているためか → 子どもだけではなく大人も協力しているのではないかと → 普及啓発が必要
- ・園内に薄暗い場所があるからマナー違反があるのでは？ → 見回りはしているのか → 見回りはしているが夜間などは見回り不可 → 防犯カメラの設置など進めていきたい
- ・デイキャンプ利用者が生木を燃やそうとする → 一部炭化した木を元の場所に戻してしまい危険 → 看板設置など対策したい



意見交換の様子

公園の現状のまとめ

これまでの調査や意見交換の中で挙げられたご意見を駒場野公園の地図上に落とし込みました。成長し、変化をつづける自然環境の様子とともに、人々に利用される公園としての姿が見えてきました。



今後の予定

- ・6月に実施予定の「駒場野フォーラム」で課題の確認し、夏ごろに樹林地の保全、水田・池など水辺地の保全に向けた今後の取り組みの具体的な内容について意見交換会を実施します。
- ・開催案内をお送りします。ぜひご参加ください。

担当： 目黒区都市整備部みどりと公園課みどりの係
Tel：03-5722-9359 Fax：03-3792-2112